

活動名 金沢信用金庫寄付講座「地域金融論」

代表者名 経済学部教授 吉田 隆

はじめに

本学は、石川・金沢における地域金融の重要な担い手である金沢信用金庫様から寄付を頂いて「地域金融論」を開講しており、2018年度は10年目となった。本講座は、経済学部経済学科のカリキュラムの一環をなしており、地域を経済学的・政策的な側面から学ぶ「地域系」の「学科選択必修」科目の一つである。

本講座の狙いは、履修者が地域金融及び信用金庫の現状・課題を学び、地域に必要とされる金融商品・サービスを自ら考える力を身につけることにある。その意味で本講座は、「専門知識、課題発見力、分析解決力、行動力を身につけ、地域社会にそれらの能力を発揮できる人材育成」（経済学科の「卒業の認定に関する方針」）に資するものである。

活動内容

従来同様、金沢信用金庫の経営層の方及び様々な部署で活躍される実務家、並びに信金中央金庫の調査研究部門の方をゲスト・スピーカーとして招き、実践的な講義を行って頂いた。履修者は、そうした内容を学んだうえで、グループに分かれ、「若者の信用金庫の利用促進策～地域に必要とされる金融商品・サービス～」を企画・提案するグループ・レポートを作成した。

グループ・レポートは金沢信用金庫の専門家の方々に評価して頂いた。評価の視点は、オリジナリティがあるか、有効と考える根拠が明確か、講義内容が活かされているか、課題がきちんと検証されているか、といった点である。本講座の最終回では、同金庫の理事 経営管理部長 西井隆志様から、特に優れた3つのレポートを表彰頂き、全体の講評も頂いた（写真を参照）。

表彰を受けた3つのグループ・レポートは、①地

方創生につながる大学生の起業を支援する貸付プラン、②若者が投資を始めるきっかけとなるアプリ、③地域の祭礼行事の継承を支援する貸付などのプラン、という内容である。西井理事からは、いずれもよく検討された現実的な提案であるとの評価を頂いた。

成果、結果の考察

昨年度に引き続き、約80名の学生（2年生が中心）が本講座を履修した。グループ・レポートに対しては、表彰グループのレポートに限らず総じて、金沢信用金庫様から一定の評価を頂いたことから、本講座の狙いは達成したものと考える。

今後の課題、展望

本講座は今年度が最後となるが、本講座の狙いとしたところを今後も経済学科のカリキュラムに活かすため、2020年度以降の金融分野の科目において、地域金融及び信用金庫の現状・課題に関する内容を取り入れたいと考える。

以上



グループ・レポート表彰